

ソーシャルデザインセンターの開設に向けた多摩区フォーラムで寄せられた意見について

「1.『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』に基づく多摩区における検討」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	良いことを書いてあるけどどうやって実現するのか。
2	何を目標しているのか。具体的に何をするか。枠組みがよくわからない (同趣旨ほか2件)
3	もっと団体の見学とか話を聞く機会を設けながら進めるべきである。
4	SDCは市民活動支援センターとどう違うのか。
5	川崎市は新しい公共施設は作らないとのことだが、どう整合性をとるのか。
6	SDCと市・区施設の関係性を明確化すべきである。
7	行政がフォローする部分と検討会で企画する部分の切り分けを明確にする必要がある。
8	「地域包括ケアシステム」と同じような施策になっていて、どの様に取り組んでいけばいいのか (同趣旨ほか9件)
9	価値を創造することと、社会の劣化を防止することは相反するのではないか。
10	多摩区には数多くのネットワーク活動団体がある。そのすべてを網羅した更なるネットワークになれば素晴らしい。
11	SDCの他希望のシナリオの具体的な計画はどうなっているか。

「2.多摩区を取り巻く状況」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	緑・多摩川・梨・生田緑地の文化はPRになる。
2	多摩区の人口動向を考慮する必要がある。
3	父親を地域に出てもらおう仕組み（現状を知ってもらう）必要である。
4	多摩区の強み・弱みを分析する必要がある。
5	再開発の今が逆にチャンス。新たなことができるかもしれない。
6	区画整理が行われているが、区域内の商業地域内に単なるワンルームばかりになっている。
7	ミュージアムや緑地はとて有名だが、街の事は知らない人が多い。
8	多摩区を取り巻く現状を広く区民へ公開することが必要である。
9	多摩区の強み・魅力を生かす手段とは何か。
10	現在の多摩区において、何が一番問題視されているのか、最も改善すべき点が何か疑問である。
11	多摩区は生田緑地、多摩川等自然豊か、高齢化も一部進んでいる、登戸区画整理事業で商店街が変化している。
12	登戸・向ヶ丘遊園周辺の未来像が定まっていない。
13	多摩区のイメージが暗い。
14	「問題」「課題」の抽出・整理→「解決策」「目的」「手段」etcの検討の順で考えるべきである。
15	地域活動に参加しやすくする工夫が必要である。
16	少子化と高齢化をキーとした施策の展開が必要である。
17	市民活動は活発だが各々トンガリすぎてバラバラとなっている。
18	都内に勤務している人が市民活動に参加しにくい。
19	職住接近、地元の仕事作りで若い人が働ける地域になるとよい。

「3.多摩区におけるSDCの開設理念」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	SDCの機能を明確化すべきである。
2	人と情報が自然に集まる場になるとよい。
3	色々ありすぎるとSDCの概念がぼやけてしまう。
4	新しいコミュニティをコーディネートする場所だと思う。
5	SDCの概念が人によって理解が違う。建物なのか機能なのか。 (同趣旨ほか2件)
6	子どもの幸せを第一に考える必要がある。
7	SDCの機能は将来地域の中でこそ必要なのではないか？
8	トータルの方向が見えにくい。
9	多様な活動が目に見えるプラットフォーム必要である。

10	「理念」だと抽象的になってしまう。「目的」と「手段」の方がわかりやすい。
11	指標、達成目標を意識する必要がある（例：SDGsの17の目標、169のターゲット）。
12	理念は「みんな」に向けたものであること。
13	活動が行き詰まったりした時の相談、支援がしっかりできるようにする必要がある。
14	小さい子供のお母さん達が立ち寄れる場所になるとよい。
15	川崎都民にならないために、様々な世代が活動したいと思う地域になるとよい。
16	良いけど独自性は見られない。
17	既存組織で解決できない諸問題を解決する。
18	多世代の交流があり元気なまちづくりを目指す。
19	社会問題解決モデルCityでイメージUPを図る。
20	緑保全団体のネットワークも多摩区の中心的活動である。
21	井戸端会議、きっかけづくりで知る、助け合う。

「4.SDCの基本的機能と具体的な取組について」に関すること

(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

No.	意見・質問要旨
1	多摩区内で活動している様々な団体個人を発掘する必要がある。 (同趣旨ほか2件)
2	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である。 (同趣旨ほか3件)
3	地域のたくさんあるNPOを把握、共有、連携を推進できる機能が必要である。 (同趣旨ほか1件)
4	町内会・自治会を通して地域の人材を探すのがよいのではないか。 (同趣旨ほか1件)
5	具体的に今ある多摩区の既存市民活動団体を一覧にし、ネットワークをつくり、つぶやき（各団体の困っている事等）として出してもらうのがよい。
6	新たなボランティアなどで人々の関心を引きつけるのがよい。 (同趣旨ほか1件)
7	何ができるかを考えるための集まりがあるとよい。 (同趣旨ほか2件)
8	退職者の集まるサロンがあるとよい。
9	子育て中のママのスキルを収集・活用するとよい（お茶会やランチ会で）。
10	子・老・障・外、様々な人達共同のイベントがあるとよい。
11	人間関係づくりには、飲む・食べる・作るの3要素が不可欠ではないか。
12	経験をかくさない形の人“材”リストが必要ではないか。
13	様々なスキルをもった人を人材バンクとして登録し必要なスキルを市民活動団体等に派遣するとよい。
14	同じ関心分野、志を持つ人をつなぐ（つなげる）人が重要である。
15	こどもミーティング（こどもの意見を収集する場）を開催するとよい。
16	大田まちづくりカフェのスライド最後から2頁目の図は「土壌」づくりの参考になるので文章で追加するとよい。
17	いこいの家はもっと必要。坂道多く、歩いて行けない。
18	大学他、若い人の参画、企業参画をどのように促すのか。 (同趣旨ほか2件)
19	地域住民へのPRが必要である。 (同趣旨ほか2件)
20	新たな事業企画について一定期間募集し、審査をSDCの中でして事業化までフォローするとよい。 (同趣旨ほか1件)
21	独自性を生み出す努力が必要、それが具体的に見つからないと近隣へ流れてしまう。 (同趣旨ほか1件)
22	たくさんの方々が参加しやすい、入りやすい場所づくり（オシャレな雰囲気とか）が必要。

(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

No.	意見・質問要旨
1	マッチングに際しては、公平性と透明性が重要である。
2	ヒト・モノ・カネのマッチングやコーディネートシステムは具体的にどう機能するのか。
3	多摩区内企業と人材をマッチングするとよい（子育て中のママ、シニア、時短）。 （同趣旨ほか1件）
4	活動をしたい人は多く、支援したい人も多いが、つながらない。コーディネートが不足している。 （同趣旨ほか1件）
5	育児期女性のジョブマッチング（プラットフォーム整備）をするとよい。
6	シニアが子育て世代を助ける活動があるとよい。
7	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である（ポータルサイト、人材バンク、リスト作成） （同趣旨ほか2件）
7	その他のアイデアで「助成金対応」とあるが、何をやる事業なのか。
8	様々な活動を進める為の資金をどの様に集めるかが大事である。
9	多摩区へのふるさと納税を活動団体へ分配するとよい。
10	すでに中間支援をやっている団体とつながり情報共有する必要がある。
11	地域との連携が必要である。
12	団体の交流会を開催するとよい。
13	障害事業所への技術提供があるとよい。
14	障害者事業所がもっている強みと地域のニーズをマッチングするとよい。
15	経験を自慢する機会があるとよい。
16	誰でも参加できるとよい（障がいの有無、LGBT等）。
17	ヒト、モノ、カネの他に「場（場所）」が必要である。 （同趣旨2件）
18	マッチングを長期的視点でマネジメントするならば、入れ替わるスタッフの「暗黙知」ではなく、ICTツールを団体として運用した方がよい。
19	企業に賛助会員になってもらうとよい。
20	食品廃棄物のリサイクルの仕組み（町角冷蔵庫）があるとよい。
21	学校（児童・生徒）への参加促進（中学校部活の制限）を働きかけるとよい。
22	まちのひろばの組織には、町内会・自治会の役割が重要である。
23	必要な人に必要な情報を届けてほしい。

(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

No.	意見・質問要旨
1	地域課題の調査をどのように実施するのか。 （同趣旨ほか2件）
2	優先的に取り組むべき課題をどのように決定・選出するのか。
3	困りごとのワンストップ相談窓口は必要（きちんと専門家につなげられる所）である。
4	問題のリサーチから始めるべきである。
5	悩みを気軽に話せる関係作りが必要である。
6	高齢者のみの世帯が増えると予想されるが生活相談、心の悩み等相談できる場が身近にほしい。
7	外国人の居住に関して、住居が決まるとすぐに情報提供できる場所がほしい（安心感を与えたい）。
8	登戸の町の未来がどうなっていくのか。住む人々が現状では見えにくい。
9	多摩区の弱みは何か。
10	弱みとして、坂が多いのは不便だが、坂にスポットを当てて名所にできないか（例：ピクニックタウン、長尾台のコミュニティバス）
11	町会・自治会との連携が必要である。 （同趣旨ほか1件）
12	町会の行方が心配である。
13	小中学校の子どもたちから地域の勉強をさせるべきである。
14	小学校登校前に朝食抜きの子供が多いという現実をどうするか。

15	まち全体を歩行者天国のようにした遊びや（道遊び）交流会を開催するとよい。
16	子どもが中心となる活動や取組（防災イベントなど）があるとよい。
17	子どもと老人の施設を融合（合体）できないか。
18	空き家を活用できる様な制度作りが必要である。 （同趣旨ほか4件）
19	川に囲まれているので、防災対策（水害など）に取り組む必要がある。
20	防災を視点としたネットワーク作りをするとうい。
21	社会人（会社勤め）の方を活動に巻き込む仕組みづくりが必要である。（例：push型情報発信） （同趣旨ほか1件）
22	若い人が町に関わりやすくなるようなイベントがあるとよい。
23	外国籍の人たち、障がいの人たちも参加できるバリアフリーな活動があるとよい。 （同趣旨ほか1件）
24	不登校の子の居場所があるとよい。
25	ひきこもりの人たちも気軽に参加できる活動があるとよい。
26	おもしろいと思える活動が必要である。
27	三田地区にあるKCセンター（の活用）がうまく機能していないので、不満である。
28	全市的共通課題について、区外からのアプローチもできるようにすべきである。
29	小さく生んで大きく育てる取組方法を導入するとよい。
30	社会問題解決のモデルcityとしたい（例：食品ロス問題＝空き家・アパート、子ども食堂など）。

(4) 地域課題への専門的支援

No.	意見・質問要旨
1	専門家、技術者の集め方をどうするのか。
2	町内会・自治会とのマッチング方法をどうするのか。
3	どんな知識を求められるかによって、お手伝いできることもあると思う。
4	プロボノの活用と専門家からのアドバイザリングは、無料ボランティアで行うのか。
5	地域人材（プロボノワーカーなど）のバンクづくりには興味がある。
6	普段から地域間でのつながりを持つことが、「共助」力の強化につながる。
7	認知症の暮らしの困りごとに対応できる場所など、相談窓口の設置が必要である。
8	川崎に住む人の多摩区内での紹介やネットワーキング（土業とか）するとよい。
9	子育てへの支援が必要である。
10	常設プレーパークがあるとよい。現状、川崎の子が思いっきり遊べない。
11	企業ともっと積極的にコラボし、つながるとよい。
12	活動地域とSDC拠点とが離れていても、サービスを楽しむようにすべきである。
13	医療方面の相談窓口を充実（他との連携含む）するとよい。
14	3大学との先生と話し合うとよい。
15	市民団体の困りごと（資金問題 助成金の案内、申請事務の手助け）に対応できるとよい。 （同趣旨ほか1件）
16	任意団体は信用を得るのが難しい。行政の支援が必要である。
17	いろいろな団体を行政が紹介する手段を取ってほしい。
18	子育て世代が喜んで移住、住み続ける施策が必要である。
19	防災イベントの開催によって防災スキルを高める必要がある。 （同趣旨ほか1件）

(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる

No.	意見・質問要旨
1	人員・人材の発掘・開発について、この事業はこのような能力を持つ人がいない、少ない。
2	社会に貢献する人材をどう育てるのか。
3	人材育成には、行政・社協・小中高での講習会の開催が考えられる。

4	人材育成の場が少ない。 (同趣旨ほか1件)
5	専門家のボランティアをベースにしたメンターシステムをつくるのがよい。
6	事務方の人材と現場方の人材の育成が必要である。
7	地域の小中高などの学生、若者が地域で活動していないことが課題。ボランティア等のマッチングが必要である。
8	地域と複数学校間のイベントコーディネートを行うとよい(消防や警察も)。
9	大学生が地域にインターンというのは多いが、市民がもっと大学で学べる場(地域について)があってもよい。
10	大学の中に地域の環境、農業について学ぶサステナビリティ講座があると市民との連携ができると思う。
11	若い人材の計画的育成や地域に住む大学生の活用を図るとよい(チャンスは高3生)。
12	子ども、学校と連携したSDC活動(例:学校訪問)を行うとよい。
13	高校での町とのつながりが深いと感じる。小中学校・大学のように、ボランティアのようなものを高校生にもっと依頼してもよいのではないかと。
14	地域の大切な公共施設「学校」の位置付けはどうか。
15	市民団体の困りごとは高齢化。若い人の人材育成が必要である。
16	社会人教育への一般人の参加が必要である。
17	農業体験を行うとよい。
18	様々な方々(障害、海外ルーツ他多様な方々)をが住んでいることを住民として知る、支え合える場をつくる必要がある。
19	子どもが楽しく参加できる活動があるとよい。 (同趣旨ほか1件)
20	若い世代が地域の活動に興味を持てる取組が必要である。 (同趣旨ほか1件)
21	子どもと高齢者の交流の場を作ることが必要である。 (同趣旨ほか1件)
22	20代、30代、40代が活動出来る場があるとよい。
23	取組のアイデアとして、お父さん向けのキャンパススキル講座が考えられる。
24	ハンディキャップのある方の支援が必要である。 (同趣旨ほか1件)
25	新たに取組む事業を区民へ発信する機能や紹介する機能が必要である。

(6)「まちのひろば」への支援

No.	意見・質問要旨
1	地域にふらっと参加できるような“場”があるとよい。
2	スペースの調査、情報収集・整理をどのように行うのか。
3	地域交流の場所はたくさんあるが有効に活用されていない。
4	高齢者が居場所になっているカフェと子ども・子育て世代が場所を共有するとよい(「よい」ごちゃごちゃ感)。
5	ネットワーク環境が整備されたコワーキングスペースとして開放される施設があるとよい。
6	サテライトオフィスとしての利用できる場所があるとよい。
7	長生きするのが楽しくなるよう、色々相談できる場所があるとよい。
8	区役所や料理室、コミュニティスペースなどを活用し、「自炊力」の向上として手軽に料理をできる場が増えるよい(特に男性)。
9	外国人が気軽に集まる場所があるとよい。
10	子どもを遊ばせながら大人が話をできる場所があるとよい。
11	大きな場に入りにくい。ニーズに合ったたくさんの場づくりが行われるとよい。
12	コンビニ、ミニスーパー、個人商店等の活用も考えられるのではないかと。
13	まちのひろばとしては、公園や移動図書館が考えられる。
14	無料で休める場所がほしい(コミュニティ的)。
15	地域に集まる場所が欲しい(民生委員活動、会食会など)。 (同趣旨ほか2件)
16	気軽に使える地域施設が多摩区にはない。
17	就職活動についてなど、地域に住んでいる様々な職種の方と意見を交換する場が欲しい。

18	不動産屋の情報提供と発信があるとよい。
19	多摩区の地域公共施設の偏在を解消できるか。
20	登戸、向ヶ丘遊園周辺は区画整理事業を展開しているが「フツウの公園」ができ現状面白くない。有益な“まちひろば”になってほしい。
21	区画整理によりできた空き地の活用（期間限定にはなるが有効活用）が考えられる。
22	管理運営協議会に権限を移譲し、自主管理による公園の活用促進を図るのがよい。
23	各分野のノウハウの育成（支援・学びの場）
24	行政・地域包括支援センターの応援でカフェを開催するとよい（高齢者の話し相手）。
25	人・資金・場所にみんな苦労している。
26	小さな単位のカフェへの支援が必要である。 （同趣旨ほか1件）
27	公的な場所を使うことができるとよい。 （同趣旨ほか2件）
28	町内会等ですでに行われているイベントや事業と調整するのか。
29	生活支援分野を担うまちのひろばを構築する必要がある。
30	「まちのひろば」になりうる場所はすでにあちこちにある。人手や運用の考え方が問題である。
31	若い人が参加しやすい、活用してみたいとする雰囲気が必要である。
32	世代間の交流が出来る場があるとよい。
33	「まちのひろば」に集える人は問題なく、家庭にこもりがちの人達がいかに楽しんで来られるかを考える必要がある。
34	「まちのひろば」への参加者には偏りがある。これをどうするかが問題である。
35	「まちのひろば」はSDCで把握して一覧化するのか。
36	私達の地域で一人暮らしの高齢者が多く、話し相手はテレビだけという現実をどうしたらよいか。
37	地域の環境に合わせたまちのひろばが必要である。 （同趣旨ほか1件）

(7) みんなに届く情報発信

No.	意見・質問要旨
1	情報発信について、SNSを活用して、区民に届きやすいようにしてほしい。
2	広報の支援をしてほしい。SDCに使いやすいチラシギャラリー的な機能があるとよい。 （同趣旨ほか1件）
3	「団体登録」「回覧板」など、これまでのものはハードルが高い。
4	SNS等は高齢者にも有効なのか。
5	サイト・ホームページは誰が作り、誰が運営するのか。
6	多くの区民に届くには、まちの情報誌はよい。
7	区のウェブサイト内にSDCの特設ページを作り、毎週更新するとよい。
8	多摩区に特化した情報ポータルサイトの構築・運営について説明があるとよい。
9	他地区の活動情報を共有できる仕組みがあるとよい。 （同趣旨ほか1件）
10	SDCが持っている情報を発信すべきである。
11	多摩区イベント情報を集中的に管理し発信するとよい。
12	多摩区の地域情報を発信するFM局やラジオ局がほしい。
13	多摩区のまつりマップづくりをするのがよい。
14	情報発信の手法として誰でも理解できる内容としてほしい。 （同趣旨ほか1件）
15	地域課題の解決に向けて活動しようとする人に場所と情報発信の支援をすれば、とりあえずスタートできる。
16	バラバラな情報のとりまとめを進めた方がよい。 （同趣旨ほか1件）
17	今よりもっと情報発信して、幅広い世代に情報を届ける必要がある。 （同趣旨ほか2件）

18	多摩区を小田急線を境にして区域ごとに活動情報を知ることができるようにするとよい。
19	名称にこだわりすぎ（例：SDSとSDC）。住民に説明が難しい。
20	区役所は高く目立つのでプロジェクションマッピングを行うことができないか。ドラえもんを使うことで外国人客を集めることができる。

(8) 多摩区内の人と人とを結ぶ

No.	意見・質問要旨
1	おもしろいことをやる。おもしろくないと来ない。
2	イベント・カフェ・食堂は誰が企画し、誰が運営するのですか？
3	交流企画イベントが欲しい (同趣旨ほか1件)
4	地域間をつなぐコミュニティバスが必要である。 (同趣旨ほか2件)
5	商店街の活用、商店とのコミュニケーションがあるとよい。
6	たき火ができると人が集える。
7	今日みたいなフォーラムや現場視察の機会があるとよい。
8	核家族化が進む中、世代間交流の場づくりが必要である。 (同趣旨ほか4件)
9	駅前にみんなで集まれる場所があるとよい。
10	親子がいつでもいれる場所があるとよい。
11	高齢者が集える場所があるとよい。 (同趣旨ほか1件)
12	福祉団体のネットワークはあるが他のネットワークとの連携がない。
13	創造、アートと他分野（福祉、エコ等）とのコラボで、なかなかつながらない人をつなぐ場をつくとよい。
14	活動の発表の場があるとよい。
15	通勤・通学など地域に住んでいない人をどう巻き込むのか。
16	他分野の活動・人との「ナナメ」の交流で生まれる活動がほしい。
17	産・官・学・民とのつながりの構築が必要 (同趣旨ほか1件)
18	子ども食堂等のイベントなど、今あるイベントを知ってもらうとよい。
19	貸本配達ネットワークや、読み聞かせ派遣などを行うとよい。

(9) 多摩区の地域特性を活かした取組

No.	意見・質問要旨
1	向ヶ丘遊園跡地にこども達からシニアまでのあそび場を運営する。 (同趣旨ほか2件)
2	生田緑地、向ヶ丘遊園跡地、藤子・F・不二雄ミュージアム、三大学を活用するとよい。 (同趣旨ほか3件)
3	生田緑地から駅までの人力車・馬車を運行する。
4	岡本太郎美術館を中心としたアートイベント（過去にもあるが）を開催するとよい。
5	多摩区は地域的に若い人達が多く住んで居る（若者が活躍できる観点）。
6	大学生の街コンを開催するとよい。
7	明治大学・平和博物館と連携できないか。 (同趣旨ほか1件)
8	地域資源として「登戸の渡し」を活用するのがよい。
9	多摩川を遊びながらきれいにし、愛する心を育む。
10	多摩の自然特性を結びつける取組が欲しい。各箇所が独立しすぎている。
11	川崎市、多摩区のオリジナリティが重要である。
12	地域特性を活かすための資源をどのように洗い出すのか。
13	地域ブランディングが必要である。

14	市民館・図書館・美術館との連携で各々の活動への協力を行う。
15	多摩区おもてなし隊を結成するとよい。
16	全国発信の多摩区観光ツアーを開催するとよい。
17	有名キャラクターとコラボしたイベント開催PRなどを行うとよい。
18	マルシェなどによる農作物の販売を行うとよい。
19	福祉教育や体験を行うとよい。
20	災害時井戸水を供給する家を活用できないか。

(1)～(9)以外に関すること

No.	意見・質問要旨
1	いろいろな活動のアイデアが書かれているが、どの様に優先順位を付けて取り組むのか。
2	広く参加者を集める手段をもう少し考えたほうがよい。
3	大森まちづくりカフェ設立までの苦労話も少々お聞きしたかった。
4	ゲストスピーチの目的がわかりづらかった。
5	総花的よりしぼってスモールスタートで。
6	活動と改善効果のみえる化が欲しい（効果、金額等）。
7	オープンな議論や運営にすべきである。
8	希望のシナリオの実現性は。資金はあるのか。
9	コミュニティビジネスはどうか。
10	最終的に、市民がSDCを運営すると聞いたが、全てボランティアで運営するのか。
11	自治会、子ども会、商店会それぞれの連携はどうするのか。SDCの課題ではないか。
12	交通不便地区の課題解決（交通インフラの整備等）に取り組んでほしい。
13	駐車場や安く泊められる所。双子、3つ子が増えている。
14	生田中学創作活動センターを活用するのがよい。
15	多摩区での働く場所を開拓してほしい。

「5.開設場所」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	せきれい跡地の広さは適切なのか。 （同趣旨ほか2件）
2	せきれい跡地でもよい。ただし交通の便が悪い。 （同趣旨ほか2件）
3	せきれい跡地はせまいが便利である。
4	最終的にはより広い場所、オープンな形がよい。 （同趣旨ほか3件）
5	人の動線、人のあつまる場所がよい。
6	将来的には生田上水場跡地なども含めて広く候補地を検討すべきである。
7	市住宅公社の大きな空室（事故住宅）も考えられる。
8	駅に近い方がよい。 （同趣旨ほか2件）
9	廃校など遊休施設を活用できないか。 （同趣旨ほか1件）
10	商店街の中がよい。
11	生田緑地の一部を活用できないか。
12	地域で興味ある人に呼びかけてみてはどうか。
13	SDCは1ヶ所にとどめない。 （同趣旨ほか1件）
14	サテライトがあってもよいのではないか。 （同趣旨ほか1件）

15	事務所は1つでも活動の場は複数あっても良いのではないか。既存のこ文、いこいの家など分室をつくる。
16	場所はなくてよい。毎回違ってよい。
17	生田中学創作活動センターをもっと活用したい。 (同趣旨ほか1件)
18	横浜市都筑区の北山田中学校のコミュニティーセンターをモデルにするとよい。
19	区画整理の土地にSDCを設置することも考えられるのではないか。
20	休憩できる場所がほしい。

「6.運営についての考え方」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	中・高・大学生にどのように関わってもらうのか。 (同趣旨ほか2件)
2	人が集まるためにどうしたらよいか。
3	不景気の中、退職者をどうひきつけて活動してもらうかがカギだと思う。
4	コミュニティ横断する人が必要である。
5	運営団体としては事業ごとにその分野に詳しく、志のある方が理事として推進すべきである。
6	「市民主体」の市民をどうやって選ぶのか。 (同趣旨ほか3件)
7	若者、子育て、シニア世代、ハンディキャップのある方など幅広い方で運営するとよい。 (同趣旨ほか1件)
8	みんながファシリテーターになる研修システムが必要である。
9	分野ごとの協力が必要である。
10	検討会のメンバーが必要な能力も顧みず、運営をいきなりしたいというのはおかしい。
11	SDCの検討会は年齢層高い。若い人が入らなければ分断する。
12	これまでの市民活動の蓄積や成果は尊重しつつも、特定の人たちが優遇されるような形は避けるべきだと思う。
13	運営方法として、ヒト・モノ・カネを稼いでくる部門と分配を決めるをキッチリ分ける必要がある（税金のお手盛りにならないように）。
14	分配を決めるのは運営スタッフでなく、第三者にまかせる必要がある。また、規則をつくる必要がある。
15	SDCに関わる人達が少しずつでも収入を得られる事業展開を。
16	きっちりとした経営計画があるから小さな出発になる。 (同趣旨ほか1件)
17	人、モノ、金がないと団体が活動できない。良いものも続かない。 (同趣旨ほか7件)
18	フリーペーパーの広告収入を得られないか。
19	休眠預金活用の必要性はどうか。
20	地域通貨を活用できないか。
21	行政やNPO法人など既存の団体の一部として運営する。
22	運営スタッフは、はじめは無給でも有給にしていかないと続かない。
23	運営組織の機能がはっきりしていないのに、その形態（NPOとか）が議論されるのはおかしい。
24	運営組織のほかにもう側は賛助会員などになっていただき、その意見を反映するとよい。
25	いずれ法人化目指すとしてもまずは「柔軟さ」を第一に考える必要がある。
26	自主・自立の市民主体の運営の定義（ゴール）が少しあいまいに感じる。 (同趣旨ほか2件)
27	いつ止めるか、サンセット方式で区切りをつくっておく必要がある。
28	開設場所にはスタッフとして誰がいるのか。区役所職員はどのような立ち位置なのか。
29	空き家、空き地利用にはオーナーと利用者間の行政のコーディネートが必要である。
30	各団体の連携があると、お互いに活動が広がるので、連携がもてるようにするとよい。 (同趣旨ほか1件)
31	SDCは情報の取りまとめに特化するとよい。

32	集まらなくてもディスカス、意思決定できるシステム（MURALボード等（ネット会議））を設けるとよい。
33	信頼できるリーダーが皆の意見を拾いあげる運営が望ましい。 （同趣旨ほか1件）
34	時間軸を入れた事業運営が必要である。
35	行政施策をリードする活動をしてほしい。
36	多摩区内で実績のある団体に支援してほしい。
37	一部に偏らないように運営はコンソーシアムで。
38	インターネットやSNSで見える化する活動を行ってほしい。
39	会話を大切にしながら熟議を重ねてよりよいものを練り上げていくとよい。 （同趣旨ほか1件）
40	運営規則の作成が必要である。
41	運営する箱が必要である。
42	SDCが多摩区に1つだけとしたら、区民みんなに届くためにしっかりとした組織にならないといけない。（運営費予算必要）
43	運営主体は企業からの寄付金や会員管理も考慮し、法人格で運営する方がよい。
44	独自予算、責任と権限、交渉力が必要である。

「7.今後の検討の進め方」に関すること

No.	意見・質問要旨
1	「区民が自主的につくっていく」という視点が大切。多くの区民が関わられるように進めるべきである。
2	最終目標（ムーンショット）がパンフの内容ならそこまでの中期計画（10年？）
3	いつまでに何をというアウトプットイメージはどうなっているのか。
4	「ありたい姿」を多くの人が共有し、それを実現するための道筋を描く必要がある。
5	施策の優先順位づけはどうなっているか。
6	多摩区の具体的な課題、ニーズ調査のためにフォーラムや現場視察を行う必要がある。
7	これから作っていくというよりも、すでに活動しているものを集約していくということでもいいと思う。
8	まずはやってみて、小さな積み重ねから大きなパワーにつなげていく。1つモデル事業を決めて、検討する中からノウハウを蓄積するのがよい。
9	利害関係を考えずにまずは話し合いが必要である。 （同趣旨ほか1件）
10	まちにどんなものがあったらよいか、自分のまちの好きなところなど、学校と協力してもらってアンケートを行い、若者、子どもの意見を聞くとよい。
11	ゼロからではなく、既にある取組や成果の上にデザインしていく発想が必要である。 （同趣旨ほか1件）
12	既存にあるシステム、仕組みとの関係がわかると嬉しい（例：別物なのか、補充するものか）。
13	地域特性の「切り口（＝資源）」は何か。地域資源の洗い出しと把握から構えることが大切である。
14	コーディネート機能と、そうした人材育成のための機会が必要だと思う。
15	まちづくりに関心のある住民にSDCの考え方、基本方針をどれだけ理解を広げるかが重要かと考える。
16	地域包括ケアシステムの一環としてSDCと社協、地域振興課との関係はどうなっているか。
17	自治会・町内会への支援機能はSDCにどのように持つのか。
18	まちづくり協議会がなくなってSDCができると聞いたが、移行はどうなるのか。
19	SDCの年間予算はどの程度か。活動内容、スタッフ体制などに影響する。
20	区のサポートは中長期的に必要な不可欠である。
21	SDCと行政の距離感は「緊張感」が必要である。

その他コミュニティ施策に関すること

No.	意見・質問要旨
1	各中学校単位でコミュニティセンターを創る。